

(28)

五書史料分類表

中西敬二郎編

序

古代の聖書學者たる Tertullian 及び Origen によつて Pentateuch と名付けられた『モーゼの五書』の著者は、永らく疑問とされてゐた。基督教會に於ては、これを本來の猶太式説話と信じ、その著者をモーゼ一人に歸し、又一本のものであると考へて、何等の疑ひをさし挟まなかつたのである。然し後世に於ける科學の發達と、その批判的態度は幾多の新事實をこの中より發見し、遂に中世紀頃迄踏襲されて來た如上の意見を改變し、Pentateuch の著者は一人ではない、言いやモーゼ自身の作ではあり得ない。それは幾多の記者の記録を巧みに編纂したものであるとなすに至つた。

五書の批判的な研究は、十七世紀頃旺盛となつたが、其の科學的な研究は佛王 Louis XIV の侍醫であつた Jean Astruc に始まる。彼は藥草研究の爲五書を繙いたが、その結果は、創世記中に二つの相違せる神名を發見し、かかる現象は創世記が二つの源流から出たものであると主張した。此の發見は後 Gottfried Eichhorn が踏襲して所謂舊約史料説(Document Hypothesis)となつたものである。彼は神名の相違は、本來言語學的にも歴史的にも相異なつた性質の材料が結合した爲であるとし、更にこの假定の上に立つて研究を續け Eblin の名を有する二つの源流の

(29)

あることを明にした。彼の研究による此の第二の Elohist 説は、少なくとも最初の發見者 Astruc の提唱を明確に基礎づけたものと言ひ得る。かくの如く創世記中に未だ豫期しなかつた史料が發見された故に、遽かに Pentateuch 中の他の四書の研究を促進せしむるに至つた。然し後者には、以上の相違する二つの神名が出てゐない處から、其の研究は實に困難なるものがあつたが、一八〇〇年 Scotland Geddes が、一八〇二年には獨逸の Vater が、此の問題に關して各其の意見を發表するに及び、やゝ問題解決の手懸りが發見されるに至つた。特に後者は斷片説(Fragment Hypothesis)を發表し、同文章の數回の反覆と、語法上相違した言葉の性質とは、理論的に關係のない斷片が結びついたもので、古代のイスラエル文學の編纂者によつて、調子よく巧みに編輯されたものであると言ひ、申命記は David 時代に出來たもので、この説話の中心となる物語に、Pentateuch の殘部が次第に添加されて一本となつたものであると主張してゐる。これに對して、De Wette は、更に一步を進め、五書中の法律と、同時代の説話を周到に比較研究した結果、申命記は Josiah の改革前に於けるイスラエル民の生活と信仰とを寫出したものであると提言した。然し此の結論は、Josiah 時代に於ける寺院に發見され、且つ彼の改革の動機となつたそれ以前の法律と申命記所載の法律とを同一に取扱ふには、些かの逕庭がある。兎に角、De Wette によれば、申命記はかく簡單に處理されてゐるが、然し未だ根本問題は解決されてゐないのである。かるが故に此の反動として創世記の Elohist と申命記の律法とを關係づけんとする試みが起り、Ewald 一派の補修説(Supplement Hypothesis)が出現するに至つた。彼等の主張する處は、根本的に統一ある第一史料 Elohist と Jahvehist 記者がこれを補遺修正した Jahvehist 史料の二つが存在すると言ふ點にある。而して此の説はその史料全體の統一性に重きを置いた結果各史料の獨立性を輕視する傾向があつたので、一八五三年 H. Hupfeld が新史料説(Later Document Theory)を立て、此の缺點を

(30)

補ひ兩者の關係を融合せんと計つた。彼は Elohist 及び Jahvehist は相互關係を有する物語であつて、補修の部分はその本來の性質とは著しく相異なるものであると主張してゐるが、後世の研究の指針となつた彼の提唱は、結局左の三つに要約することが出来る。即ち(一)創世記中には明に二つの Elohist 史料がある。(二) Jahvehist 史料は少なくとも Elohist 史料より獨立したものである。(三) Jahvehist の反覆と散見とは補修説を證明するに足る。——と言ふ點にある。而して Hupfeld と略同様の意見を持つものに、Nöldeke がある。彼は前者の提言に僅少の修正を施し、Elohist 史料はその言語學的特質及び宗教的思想から、全五書の中より容易に之を抽出し得ると稱してゐる。之に對する學說に Graf-Wellhausen 説がある。其の言ふ處は、假令批判考證により Pentateuch の組形史料を明かにすることが出来るとしても其の相互關係を求むるは困難であるとしてゐる。一八六六年 Graf はかゝる假定に立脚し是等の史料を比較研究して Josiah の律法と申命記とは同一のものなりと斷じ、更に申命記を出二十一—二十三、三十四の Jahvehist 法と假定せば、利未記所載の律法 P の大部分はその記者の知る處でなかつた筈であると考へ、外部の證據によつて P は虜囚前の所産ではなくて、恐らく學士 Ezra によつて作られたものであるとの結論に達した。Graf の考へは全部を信頼するには多少の難點はあるが、該説は Wellhausen に後繼され、一八八三年彼の『イスラエル史序説』(Prolegomena zur Geschichte Israels)が出づるに及んで、聖書の批判的研究の最高峰に達したものと稱せられてゐる。彼の説く處によれば、豫言者書及び歴史書によつて補正された證據により、凡この法律を比較せば、所謂『モーゼの五書』に含まれたる三大史料は、悉く一時代の所産と見るは誤りであつて、是等はイスラエルに於けるその制度の發展途上の三つの段階に相等する各時代の所産であると言ふのである。而して更に彼は、法律に關する章句と歴史的章句を區別する正確なる基礎はなく、J. E は Sinai 法を含む説語であり、申命記は歴史的なるもの、祭司

司法典(Priest Code)は全體の骨組を補修するものであると指示してゐる。

此の後、これ等先輩の學說を再検討し、その誤れるはこれを正し、正しきは拾取し、更に原典の言語學的、史的考證が反覆施行され、今日に於いては、Pentateuch の Jahvehist 史料(J) Elohist 史料(E) 申命記史料(D) 祭司法史料(P)の四種より組形され、各史料には又(J)(E)(D)(P)等の年代が相違する史料が含まれてゐる事も判明し、大體其の章節の分類も出來上つてゐる。そこで今これ等の定説とされた史料を、五書研究の便宜上表示したが、此處に言ふ『五書史料分類表』である。素より原語に關する考證は、泰西の積學が充分になし盡した處であり、今日大部分は既に世の承認する處であるが、猶二三個所不明の場所がないでもない。然しそれ等はしばらく置き、茲では尤も Authoritative なものもあると考へられる。

The Holy Bible, according to the authorized Version (A.D. 1611)

With an explanatory and critical Commentary and a revision of the translation, edited by F. C. Cook, M.A., Vol. I Genesis-Deuteronomy. (Charles Scribner's Sons, New York, 1892)

はより新より研究による補遺修正は左記の諸書によつて是を行つたものである。

Dummelow: A Commentary on the Holy Bible (Macmillan, 1923)

Peake: Commentary on the Bible (T.C. & E.C. Tack, 1925)

Charles Gore: A New Commentary on Holy Scripture (Society for Promoting Christian Knowledge, 1928)

James Hastings: Dictionary of the Bible (Scribner 1924)

幸ひ本表が聖書の研究に幾分でも役立てば、編者の望外の喜びとする處である。

(31)

(32)

創 世 記	J (前八〇〇—七五〇)	E (前七五〇)	P (前四四〇)	其 他
	二四後—三二四 四—十六 四二五、二十六 五二九、六一—四 七七—十、十二、十六後、十七後、 二十、二十三 八二後、三前、六—十二、十三後 八二—二十二 九八—二十七 九八—十九 十一—九 十一—二十八—三十 十二—四前 十二—九 十三—十二前、十二後以下		一一、一四前 五一—二十八、三十一—三十二 七六、十一、十三—十六前、十七前 七十八—二十一、二十四—八—十二前 八三後—五、十三前、十四—十九 九—十七 九—十八、二十九、十一—七 十二—十 十三—十二以下 十一—十一—二十七 十一—三十一以下 十二—四後、五 十三—十一後、十二前	四十七—二十四(最古ノJ) 六五—七九 (J及P) 十二—十一—三十 (J ₂) 十二—二十 (最古ノJ) 十四 (J・E・P)

(33)

十五七—二十一 十六—後、二、四—八 十八—十九 (十九—二十九ヲ 除ク) 二十一—前、二前、六後、七、 二十一—二十五—三十、三十二— 三十四 二十二—二十一—二十四 二十五—十二後 二十五—十八 二十五—二十一—二十六前、二十七、 二十八 二十六—三十三 二十八—、三十三—十六、十九前	二十 二十一—六前、八—二十一 二十一—二十二—二十四、三十一 二十二—三十三 十六—前、三、十五—十六下 十七 十九—二十九 二十一—後、二後—五 二十三 二十五—七—十一前 二十五—十二—十七 二十五—十九、二十 二十五—二十六後 二十六—三十四以下 二十七—四十六—二十八—九	十五—十六 (J・E) 十六—九—十四 (J・E) 十七 十九—二十九 二十一—後、二後—五 二十三 二十五—七—十一前 二十五—十二—十七 二十五—十九、二十 二十五—二十六後 二十六—三十四以下 二十七—四十六—二十八—九	二十五—十六 (最後ノJ) 二十四 (J・E) 二十二—二十四、十九 (E?)、十五 十八 (R) 二十—十八 (R) 二十七—四十五 二十八—十九後、二十二後 (R)
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

三四

三五

(36)

出 埃 及 記	J	E	P	R (編者)
一六、八、一三、十四前、二十後 二二、一二、二五、二十三前	一五、一二、二二(二十後ヲ除ク)二 一、十 三、四後、六、十一、十五 三十九、二十二 四十七、十八、二十後 四二、七、二十八 五一、四	一一、五、七、十、十四後 二二三後、二五	六二、十二 七一、十三 七二、一後、二二 八五、七、十五後、十六、十九	六十三、三十 九八、十二、三十五後
五五、六一	七十九後、十七中、二十中			
七十四、十五前、十六前、十七前 七十七後、二十前、二十後、二十一前 中				
七二、三十三、二十五 八、一四、八、 中 八二、三十三 九一、七、十三 九二、四、十三、三十三、三十四 一一、十一、十三後、十四後、十五前 十五後、十九、二十四、二十六、 二十八以下	九二、一、二十三 九三、十一、三十三、三十五前中 十、十一、十三前、十五中 十二、十一、二十三、二十七 十一、一三			

* Driver 三三九

十一 四、八	十一 九以下
十二 二十一、二十三、二十七後	十二 四十三、四十二、五十一
十二 二十九、三十四、三十七、三十九	十三 三、五、七、九
十三 四、六、十、十一、十三、二十一以下	十三 十四、十六
十四 五、六、九後、十前、十一、十四	十四 一、四
十四 十九後、二十一、二十四前、三十九	十四 八、十五後、十六後、十八
十四 二十七後、二十八後、三十	十四 二十、二十一、二十二、二十三
十五 一	十四 二十六、二十七前、二十八前
十五 二十七、二十五前、二十七	十五 二十九、三十一
十六 四、五、十三後、十五、二十一、二十七、三十	十五 十九、二十六
十六 三十一後、三十五中	十六 一、三
十七 二後、三、五前、後、六前、七前後	十六 九、十三前、十六、十八
十八 一前、六、七、八後、九前、十一、十三、十四後、十六前、十八前	十六 三十一前、三十二、三十四、三十五前
十八 三十一、三十四後、十六前、十八前	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十
	十六 三十一、十七、二十

五書史料分類表(中西敬二郎編)

一六―四四十	五十一	二十九、四十、二十一、十四	十二、十九、十三、 (前七二〇)
二十一、十五、七	二十一、十五、七	二十一、十八、二十二、七	
二十二、八	二十二、八	二十二、二十二、二十四、五	二十二、九、十一、 (H)
二十四、六	二十四、六	二十四、十四、十六	二十五、十三、十九、 (H)
二十四、七	二十四、七	二十五、四、十二	二十七、 (後世ノ追加)
	二十八		二十九、三十、 (後世ノ追加)
	三十一、九、十三		三十一、 (十四、二十、三十、 J・E・D・P)
*Inuenen = 三九	三十一、一、八、七		三十一、二十四、二十九、 (H)
			三十二、 (十四、十七、 J・E・D・P)
			三十三、 (モ、I、ゼの祝福 前七八六、七、四六)
*Steenagel = 三九	三十四	三十二、四十八、五十二	